

図表 「STEM分野のオンライン職業探究キャリア教育プログラム」 調査結果



出所：昭和女子大学附属中学校におけるSTEM職業探究プログラムに関する実証実験(2023年12月実施)の調査結果から

①STEM(理系)女子奨学助成金事業
2021年から開始した本事業では、STEM分野への進学を志望する高校生女子に対して、パソコン・書籍・実験器具等の購入や、留学・サイエンスキャンプの参加費用など進学進学でかなえない夢を後押しする資金として10万円の奨学助成をしている。これまでに約1200人に給付しており、受給者の約9割が理系学部を受験あるいは進学を果たしている。

②Girls Meet STEM事業
2024年7月から「Girls Meet STEM」事業を新たに開始した。本事業は大学や企業と協力して実施するツアー形式のプログラムで、中高生の女子がSTEM分野で学ぶ学生や働く女性と直接触れ合う機会を提供している。女子生徒が大学や企業を訪問し、現場で学び、働く女性たちと交流すること

により、将来のキャリアパスを描く一助とすることを目指している。

こうした取り組みを始めるヒントとなったのは、ドイツ全土で例年4月に開催される「Girls' Day」というイベントである。ドイツ政府は、このイベントを通じて10〜15歳の女子生徒にSTEM関連の職業を体験する機会を提供しており、毎年12万人超が参加し、2001年の開始以来、参加者数は累計240万人を超える。2024年にはドイツ国内1万5千カ所以上でプログラムが提供され、シヨルツ首相やロールモデルとなる女性が参加する記者発表会も行われた。ドイツでは、2008年から2017年の間にSTEM分野の大学1年生の女子学生が、2008年の5万9599人から2017年には11万5134人とほぼ倍増している。この背景には、このような取り組みを含め、女性の理系分野への進学を推進するための産業界と政府との緊密な連携があるとの分析もある。

企業のリーダーシップと連携で「女性×STEM」を社会で啓発

STEM分野での女性の活躍を促進するためには、企業のリーダーシップが不可欠である。企業は直接的な雇用の場であり、STEM分野において、実社会と連動した実践的な体験を提供できるため、女性のSTEMへの興味・関心を高めることができる。また、企業の広範なネットワークと資源を活用するこ

とで、教育機関や自治体、メディアなどを巻き込んだ推進が可能となる。

複数の企業や産業界団体が連携し、STEM分野での女性のキャリア支援や教育プログラムを共同で展開するとともに、社会全体にその重要性に対する理解を広めるキャンペーンを協働で推進することが考えられる。また、地方から女性が流出することを防ぎ、地域活性化に資する人材を確保するためには、各地域の産業構造や特色に合わせたキャリア支援プログラムも重要である。例えば、地元の産業特性に合わせたプロジェクトを企画し、女子生徒が参加できる機会を提供することなどが想定される。

未来のSTEM女性リーダーを育てるために

STEM分野を志望する女子生徒に機会を提供し、可能性を広げるにあたり、産業界が果たす役割は大きい。前述の「Girls Meet STEM」のように、企業が連携して、様々なSTEM領域への関心を高めるプログラムを質・量ともに充実させることで、女性がSTEM領域で活躍することの重要性が社会に認知され、女子生徒や保護者の関心と進路選択を後押しすることが可能となる。

われわれは「好きなことをやる」というスローガンのもと、多くの企業との連携を通じて、一人でも多くの女性がSTEM領域で活躍できる環境づくりを進めていく所存である。

STEM分野における女性の活躍を拡大するために

当財団は、メルカリ創業者である山田進太郎によって、多様な人々が性別や背景などにかかわらず活躍できる社会を目指して設立された。特にSTEM(科学・技術・工学・数学)分野における女性の進学と活躍を促進するための活動を展開しており、その最初の目標として、2035年までにSTEM分野の女性の大学進学率をOECD平均の28%に引き上げることを掲げている。本稿では、当財団の取り組みを紹介したうえで、産業界と教育界、また企業間の連携を強化し、STEM分野で活躍する女性を増やす方策について述べる。

STEM領域に興味を持たせる体験やロールモデルとの交流が重要

学などの高等教育機関に入学した学生のSTEM分野に占める女性の割合は、日本は工学・製造・建築専攻が16%、自然科学・数学・統計学専攻が27%と36カ国中で最下位だった。この背景には、ジェンダーバイアスやSTEM領域に興味を持たせる体験の不足、女性ロールモデルの不在などが考えられる。

2023年に当財団が昭和女子大学附属中学校の協力のもと、中学2〜3年の全生徒を対象としてSTEM領域で働く女性に仕事などに関する話を聞く座談会を実施し調査を行ったところ、参加前と比較して「STEM職種への関心を持った」と回答した生徒が約3倍、「女性が働けるイメージが湧いた」と回答した生徒が約9倍に増加するなど、ロール

モデルの存在や、STEM領域で働く人に触れることの重要性が明らかになった(図表)。

こうした課題を克服していくためには、教育界と産業界の協力が不可欠となる。科学実験やロボット製作、プログラミング、またはSTEM領域の職場体験やインターシップなど、STEM分野に関連する様々な活動を通じて、楽しく学びながら将来のSTEM領域での学びや仕事についてイメージを持つ機会を増やしていく必要がある。

理系進学を後押しする奨学助成金と交流・体験事業

当財団では、女性のSTEM分野への進学とキャリア形成を支援するため、次の二つの事業を推進している。

公益財団法人山田進太郎D&I財団
広報・マーケティング調査・政策提言統括

大洲早生李
おおよす さおり



(注)OECD.Stat「OECD統計データベース」(2019)Bachelor's or equivalent